

1 教育ソフトウェアの開発と導入

様々な年代やニーズに合わせて進化させた 先進性・独自性のある教育プログラム

Honda では、様々な年代や時代のニーズに合わせた新たなソフトウェアの開発を推進しています。そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などの普及拡大にも努めています。



●交通ルール・マナーを学んだ子どもへの新たな教育プログラムを開発

今年9月に開発が完了した幼児向けの教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」は、交通ルール・マナーを学んだ子どもが実際の道路に出る前に映像で道路上の危険箇所を対話形式で考えるプログラムです。ただ映像を流すだけでなく、途中で映像を停止させ、指導者が子どもに問いかけながら、「道路のどこに危険があるか」考えてもらいます。また、導入部分では交通事故を防ぐために重要な「止まる」「観る」「待つ」という動作を習得しやすい振り付けの体操も取り入れました。開発にあたっては、地域の交通安全指導者の方々からの意見を数多く反映させ、現場で使いやすいものをめざしました。交通安全指導者の方々がかこれまで行ってきた教育手法と組み合わせて使うことも可能です。

オリジナル交通安全アニメーション「できるニャンと交通安全を学ぶ」のわたりかた」

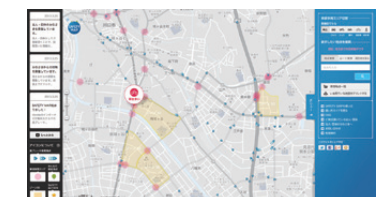
身体を動かしながら楽しく安全行動が学べる「できるニャンたいそう」

●交通事故未然防止へ「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用できることを目的に制作しました。個人の利用だけでなく、交通事故の未然防止に活用する企業・団体も増えています。大阪府警察本部は本年3月に、Honda と SAFETY MAP を活用した交通事故分析など相互に協力するという協定を締結しました。SAFETY MAP に表示される急ブレーキ多発地点データを、同府警本部の交通事故分析用地図データ内に反映し、より多面的な事故分析に活用しています。交通事故の未然防止対策として、数箇所の道路の環境改善を実施しました。警察庁交通企画課の協力のもと

全国の都道府県警察にも SAFETY MAP をご紹介いただきました。福井県では昨年からの交通安全推進連絡協議会を立ち上げ、各市町に SAFETY MAP の活用を促進し、県内の通学路の道路改善に活用しています。3月までに52カ所で対策を実施しました。また、SAFETY MAP には投稿機能があり、これを道路改善に向けた住民の意見収集に利用している自治体もあります。沖縄県北中城村では村内の幼稚園と小学校、中学校に通う子ども約1,800人の保護者に、通学路の中で危ないと感じている場所や安全対策を要望する箇所について SAFETY MAP への投稿を依頼しました。約1ヵ月半で260件以上の投稿が寄せられ、これをもとに警察と協議しながら、

通学路周辺の道路改善を実施しています。Honda はさらに多くの企業・団体にはたらきかけることにより、SAFETY MAP を交通事故低減に役立てていきたいと考えています。



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。
<http://safetymap.jp>

大阪府警の道路改善実績



(改善前)



(改善後)